



希望の鐘 2023

2023.7.11

No.6

やる気、思いやり、根気・元気

学校教育目標：「人と人とのつながりの中で、自ら学び続ける、心豊かでたくましい子どもの育成」

～校長室からこんにちは～

ことば おも 言葉について思う



7月に入り、蒸し暑い日が続いています。梅雨明け間近のこの時期は、雨が多くなる時期でもあります。各地で集中豪雨による被害も伝わってきます。私たちの住むこの地域にもいつ同じような災害がやってくるかわかりません。被害にあわれた方にお見舞い申し上げますとともに、防災の備えを改めて確認するなど、気を引き締めていかなければならないと思いました。

さて、以前にもこの紙面で「より多くの対話を通して、信頼関係を築き、子どもたちの学びをより効果的なものにしていきたいと考えます」と書かせていただきました。そんな中、地域の方より次のようなご指摘をいただきました。「正直に言わせていただきますが、先生の言葉に気になることがあります。少し、注意する言葉が多いような気がします。もちろん子どもたちの安全を守る立場ですから、危険なときは注意する言葉は必要だと思います。でも、し過ぎると子どもたちの学ぼうとする意欲や楽しさが半減してしまいます。そのあたり、バランスを取られているとは思いますが、少し気になったので伝えさせていただきます。」

このご指摘を、私は重く受け止めました。なぜなら本校のめざす子ども像は「スマイルド」であり、それを子どもたちに求める以上、教師もスマイルドでなければならないと考えます。マイルドには「穏やかな言葉」の意味があります。穏やかな言葉で接するには、穏やかな気持ちであることが前提です。しかし、教師の立場からすると子どもに指示が伝わらない、ルールが守れない、時間がかかるなど様々な理由で、穏やかな気持ちではいられず、つい言葉が強くなったり、注意する言葉が増えたりします。でもそれらの理由はすべて教師側の思いであって、子どもたちの思いではありません。子どもたちにも理由や思いがあるでしょう。それらをきちんと聞き、子どもたちとの対話によって、学びがより一層高まるような言葉がけとなることを目指していきたいと思っております。

一方、子どもたちの言葉にも気になる言葉を耳にします。友だちとトラブルがあると相手への感情が抑えられなかったり、語彙数が少なかったりして、すぐ「死ね」という言葉が出てきたりします。この言葉は、相手の存在を否定する、大きな問題のある言葉です。

子どもたちの言葉遣いは、環境に大きく影響されます。また、様々な場所や場面で形作られています。子どもたちを取り巻く環境は学校だけでなく、地域や家庭、インターネットやSNSにも及びます。それ故、思わぬ言葉を知っていたり、予期せぬ言葉遣いであったりして、驚かされることがあります。

各ご家庭におかれましても、お子様の言葉遣いや言葉の大切さ、そして、子どもたちの言葉の環境について一度、考えてみてはいかがでしょうか。

水泳の指導をしていただきました

Well・Be（ウエルビー）から2名の先生に来校いただき、1年生「水遊び」と3年生「水泳運動」の学習に講師としてご指導いただきました。

水が怖くて顔がつけられない子や緊張で体がガチガチの子に優しく接し、コツを教えていただきました。

